ニューヨーク補習授業校だより

平成２７年度　第１０号
校 長　青木　正彦

＜「未来を担う君たちへのメッセージ」　平成27年度卒業証書授与式の校長の式辞から＞



・・・このように変化の激しい社会を生き抜く児童・生徒には、どの職業についても、生かせるような、普遍的な能力が必要になるとして、具体的に3つの力を挙げて取り組んでいます。

一つ目は「学び続ける力」。

世の中の新しいたくさんの情報を吸収して、自分の頭の中で整理し、よく考えることが、これからは重要になってきます。そして、その考えたことを、自分で発信できるまでにならなければいけません。それが学び続ける力です。

二つ目は「問題を解決する力」。

問題を発見して、解決のための道筋をつける力のことです。まだ答えがないものに仮説を立てて、試みる。失敗して、また試み、そして答えに近づく。一昔前の「正解」はパソコンで検索すればすぐ出てきますが、未来の答えは創り出すしかありません。

三つ目は「コラボレーション力」です。

異なる働き方をして、異なる技能を持っている人たちと、チームを組んで課題を解決する力です。政治、経済、文化、あらゆる面で、今は世界の国々との結びつきが強くなっています。これをグローバル社会と言います。外国の数か所に拠点をもって、世界の人たちと共に働くことが、急速に増えています。同じ国内であってもです。

たとえば、パソコンで遊べる次世代ゲームをつくるとします。プロデューサーは自分がやります。プログラマーは中国人。デザイナーはフランス人、音楽家やマーケテイング・コンサルタントは、さらに別の国の人たちなどという具合です。

文化や習慣、価値観やバックグラウンド、国籍も違うかもしれない人たちと、課題解決に向けて、チームとして、協力し合い、成果を出していくのです。しかし文化や価値観の違う人たちと豊かな人間関係を作ることは、だれにでもできることではありません。子どもの頃から、自分とは違った文化を持つ人たちと、仲良く遊んだりした経験を持ってない人たちにとっては、大変難しいことなのです。

日本の小学校、中学校は、この三つ目の力をつけるために、英語教育と国際理解教育を今まで以上に力を入れて取り組んでいます。でも、これは日本だけでなく、どこの国においてもそうですが、一つの文化の中に留まって、コラボレーション力を身に付けさせることは、容易なことではありません。

しかし、ここにいる卒業生の皆さん、皆さんはアメリカの文化と日本の文化という異文化間を行き来し、現地校と補習校に通うことで、このコラボレーション力を自然のうちに身に付けているのです。現地校と補習校に通うことは、大変だったと思いますが、この変化の激しい社会を生き抜くための最も重要な力を身に付けたのです。そのことを自覚し、自信を持ってほしいのです。

私の座右の銘は、英語で言えば、Where there is a will, there is a way.「意志あるところに、道は開ける。」です。

私たちの先人たちも、過去の大きな社会変化の波を乗り越えて新しい時代をつくってきました。卒業生の皆さんも、新たに変化する社会の中にあって、人々の生活を支え、幸福を追求できるような道を、切り拓いてほしいと思います。